

# 西陣のモノづくり産業の見える化と 交流促進を通じた地域活性

## 1 目的・概要



織物産業をはじめとする伝統産業の盛んな西陣地域では、様々な分野でモノづくりの方が活躍されています。一方でその中での交流が少なく、同じ地域に住んでいながらもお互いの仕事内容がわからない、というのが現状でした。そこに職人同士、さらには職人以外の地域の方との交流の場を作り、西陣地域全体を活性化しようというのが本プロジェクト科目の目的です。そして昨年までの同プロジェクトの活動によって、少しずつ地域の交流の場が生まれています。今年度はその交流の場の継続・深化を目標に、さらに活動を学生主体から地域主体にするに

はどうすべきかを考えながら活動をしました。

春学期は、今宮神社の「織姫七夕祭」に関連したイベントを地域の方と行うことで、交流促進・地域活性のきっかけ作りを目指しました。今年度は地域主体での運営を学生がサポートするという形を取り、そのために地域に住む方々に向け、職人が工房を公開して交流を図る地域主体のイベントである「工房公開」により多くの人に参加してもらうため、学生企画の「工房めぐり」を考案・実行しました。

秋学期は西陣の若手クリエイターを紹介する情報マップの製作に取り掛かりました。マップを通じて地域の方とモノづくり関係者の距離を縮め、地域活性化という最終目標に繋げていこうという目標のもと活動を行いました。



### Annual Schedule

|       |       |   |
|-------|-------|---|
| 2018年 | 4月    | 工房見学開始  |
|       | 5月    | 地域の方へのヒアリング、反省会                               |
|       | 6月    | 織姫七夕祭の宵祭り企画の考案開始・交流会実施                        |
|       | 7月    | 宵祭り企画への準備（アンケートや記念品の作成）                       |
|       | 8月    | 織姫七夕祭宵祭り企画として「工房めぐり」の実施                       |
|       | 8月    | 織姫七夕祭の手伝い                                     |
|       | 10月   | 春学期の反省会、マップ「YoungCraftsmen」製作決定、クリエイター様情報収集開始 |
|       | 11月   | 10月に引き続き募集・決定                                 |
|       | 12月   | 訪問開始、マップ製作開始                                  |
|       | 2019年 | 1月  |

## 2 成果達成度

昨年度までの活動の結果により、地域の方が自主的に集まり今宮神社御旅所を掃除するという活動が行われています。さらに、今年度は地域の方が織姫七夕祭宵祭企画の実行委員会を立ち上げ、動いていくことになったため、履修生はサポートとして宵祭企画に参加しました。また宵祭企画のひとつとして、昨年度までは学生が工房公開を運営していたのを、今年度は工房・地域の方にお任せし地域主体を実現させる一方で、さらなる交流促進のために履修生独自の企画として、イベント「工房めぐり」を開催する運びとなりました。工房めぐりでは、「工房公開」でたくさんの工房を回って頂くために、工房を回る数の目標を設定し、達成者には記念品を贈呈するという取り組みを行いました。工房を巡ってシールを集めてもらい、履修生が工房の方から頂いた資材で作成したコースターを記念品として配布しました。実際のモノづくりで使用される布や畳、糸や皮を使ったものを記念品とすることで住民の方にもっとモノづくりを身近に感じてもらうためです。

春学期の反省として、まず1つは広報をお忙しい地域の方に全てお任せしてしまったために工房めぐりの認知があまりされておらず、予想より参加者が少なかったことです。アンケート回収数にも影響が出てしまい、今後の活動の道しるべとなるものが少なくなってしまったことも問題でした。もう1つ問題として、織姫七夕祭終了後、御旅所の掃除や交流会への参加人数の減少が挙げられました。この2つの観点から、



①西陣地域の方に広く知れ渡るものにする  
と

②私たちがコミュニティを作るのではなく、地域の方が新しいコミュニティを常に作っていきけるようなキッカケになるものを製作することが必要だと考えました。



秋学期では上記の問題を解決するための手段として、西陣の若手クリエイターを紹介するマップを製作することに決定しました。西陣地域のモノづくり関係者だけでなく地域住民の方にもクリエイターの存在を認知してもらい、モノづくり産業の見える化、またマップで知った新しい方との交流で、地域交流の活性化につなげていくことを目的としたマップです。製作したマップは、多くの方に手に取ってもらえるように、すでに存在しているいくつかの西陣コ

ミュニティや京都市北区役所、同志社大学寒梅館など様々な場所に配布後、アンケートをQRコードにて実施、回収予定です。

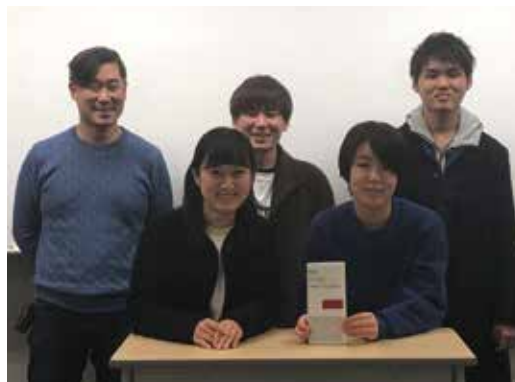
## 3 プロジェクトを通じて

「学生としてできること」というより社会人として活動する上で足りないことを実感する毎日でした。大学という枠組みを外しても社会に出せる企画・ものを作るために企画書を書き、メールの文面を作り、締め切りを自分で調べ、自分で足を運んで取材に行く。そういったことが自分達にいかに足りないか、力不足だったかを実感した一年でした。

逆にいうと、受け身ではなく自主的に行動して成し得た成果を感じた時は自分たちでも驚くほど楽しめるのだということを実感した実り多いプロジェクトだったと思います。

昨年を通した本プロジェクトで、西陣地域の方々をタテ・ヨコ共に繋げることに重きを置いた活動はしましたが、現段階としては地域の方々が全体的、主体的に地域活性化や発展を目標として交流を行っているわけではないと思います。

それを踏まえた上で、西陣地域の現状の課題は『主体的に取り組むことができる構造づくり』と考えて、今年度は活動してまいりました。タテ・ヨコを繋げた去年から、そして交流の形や深化を求めて今年度は活動しましたが、「イベントが成功する」などの目に見やすい結果では表せないので、私たちの活動がどう地域を変えたかはまだはっきりとはわかりませんが、今回のような工房・クリエイター様同士の交流や他の新たな企画などを“継続”し続けることが必要だと感じています。ご協力いただいた多くの皆様、本当にありがとうございました



### 編集後記

まず初めに、私たちがこれらの活動をするにあたりご協力いただいた西陣地域の方々、および教職員の皆様、本当にありがとうございました。プロジェクト始動当初、「学生」だからこそその身軽さを活かした活動にしたいと思っていましたが、逆に未熟さゆえにたくさんの方に迷惑をかけてしまったと思います。それでも取材を快諾して、私たち履修生にお時間を割いて頂けたこと、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

本プロジェクト科目は昨年もあることながら少人数での活動になりました。1人1人が学部生としての課題にも追われる中での活動は、思うように時間を割けなかったことも、しんどいと思うことも多くありました。やることに追われる1年間がなんとか終わろうとしている今は、ほっとする気持ちでいっぱいですが、今後も何かしらの形で西陣に関わっていきたいと思います。学生生活の残り約1年、そしてその後も、本プロジェクト科目での学び・反省点を糧にしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。 西尾 萌音 (文3)

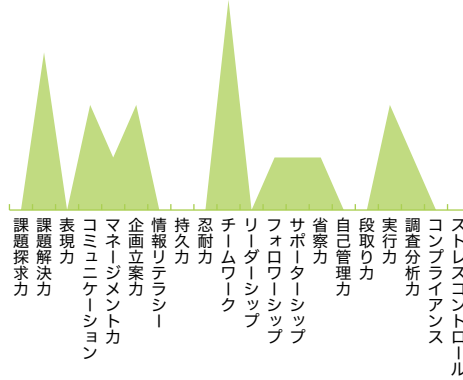
### プロジェクトメンバー

田口 拓海(経3) 西尾 萌音(文3) 宮本 和華(グロ地3) 向山 和寿(法3)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

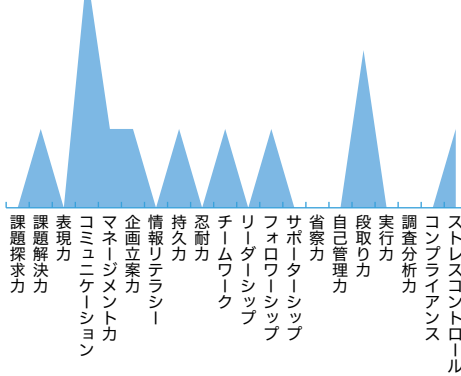
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

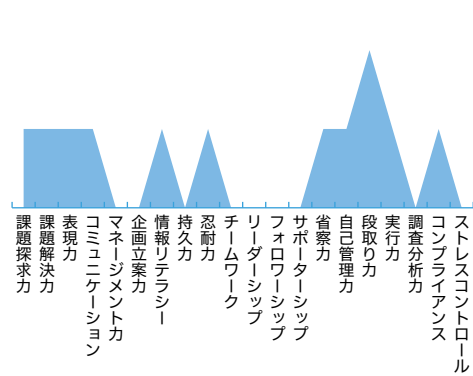


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

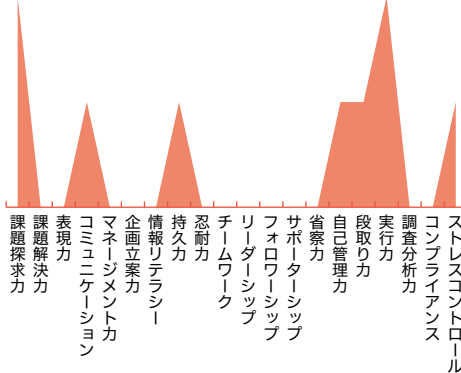


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

